おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ー５年生ー　　NO．60

このコラムが60回ということは、丸５年、あんずを卒園した第１期生が放デイに移り、５年生になりました。就学前から入学後へ『“たて”につながる支援を』という思いから始めた**あんずで**すが、子ども達の育ちを見守っていくなかで、その時々で必要なこと、後になって活かされてくること、そして、大きくなっていくことへの手応えや展望が、『今日』の過ごし方を深めているように思います。

５年生ともなると、生活は落ち着いたもんです。まさに“生活習慣は一日にしてならず”ですから、小さい頃からコツコツ積み上げてきたことが、学校や地域で過ごす土台として揺るぎないものになっています。年齢が上がるにつれて求められていく“身だしなみやマナー”を、上級生としてのプライドや“かっこよさ”をくすぐられながら、身に付けようとしている日々です。

小学生ですので、“学び”が仕事みたいなものですが、授業はそれ自体が目的なのではなく、人として育つための手段ですからね。当たり前にやってくる毎日の学校生活と授業、友達関係を通じ、元気になったり、がっかりしたり。背伸びをしたり、落ち込んだり。褒められたり注意されたり。その中で、これまで身に付けてきたことを活かしながら、少しずつ新たなことを吸収しています。“好きな人”“好きな場所”“好きな遊び”を大事にしてきた幼少期から、“遊べること”“選べること”“身の回りのこと”を大切に、今日まで過ごされてきた証だと思います。もちろん、みんなそんなことを、毎日意識して過ごしているわけではありませんが、子ども達とも、ご家族とも、あんずでの世間話の中で、何となくそんなことにも触れ、小さな確認をしてきているのだと思います。

“先生”と呼ぶ人も何回も替わり、でも、その子らしさを前面に出し、個性を損なわない過ごし方ができているのは、マネージャーであるご家族の存在があってこそです。そのご家族も、我が子の姿や風向きをいつも細やかに見定めながら、日々に一喜一憂せず、落ち着いたもの？です。心配事は絶えなくとも、我が子の育ちと軌跡を信じている姿だなと思います。何かあっても、“情報収集”“相談先”“家族の役割”の３つを押さえている家庭は、その子に合った対処法を見つけているのでブレません。小さい頃からの我が子の手応えを、あんずで親子一緒に過ごしたあの時間から今日まで、まさに『その手』で感じてきた安定感だと思います。

「今、あんずに親子で通ってきている後輩に伝えたいことは？」とお尋ねしたら、先輩方！何を伝えたいですか？話したいですか？ 日々を過ごしていくためのノウハウや知恵は、きっとどんな専門的な話より説得力があって役に立つと思います。でも、それ以上に大切にしてきたことがあるのではないでしょうか？ 人それぞれ、家族ごとそれぞれのメッセージが。

今度、レターにしていただけますか？ 後輩のこと、そっと思っていただけませんか？ 放デイの皆さんに改めてお願いしますので、よろしくお願いします。

先日、５年生の子のお父さんに、砂場の砂を入れ替えていただきました。「そろそろ、砂の入れ替えを考えているのですが」と相談したら、ひと声「僕がやりますよ」と。うれしかったなあ。すみません、甘えてしまいました。

小さな砂場ですが、ずっとつながっている愛が埋まっているんですよ。（Ｒ３．５）Ｋ